

東京オリンピック・パラリンピック・
ラグビーワールドカップ特別委員会
県内調査報告書

平成30年2月7日（水）

1 調査の概要

- (1) 調査箇所 熊本県東京事務所（銀座熊本館）、湘南港（江の島ヨットハーバー）
- (2) 出席委員 藤代委員長、田中(徳)副委員長、おざわ、石川(巧)、国松、米村、さとう(知)、渡辺(ひ)、池田の各委員
- (3) 調査日 平成30年2月7日(水)

2 熊本県東京事務所（銀座熊本館）

(1) 調査目的

熊本県では、2011年の九州新幹線の開業を県民運動として盛り上げるための旗振り役として誕生した地域キャラクター“くまモン”（ゆるキャラ）は、県営業部長として熊本を売り、現在全国区になっただけでは止まらず、海外まで展開するようになった。そして、2016年に発生した熊本地震復興のシンボルとなり県民の精神的な支えにもなった。このように、くまモンは熊本県に経済的価値ばかりではなく、文化的・象徴的価値をもたらし、熊本県における魅力発信戦略の中核として大きな貢献をしている。

さらに、2019年に熊本県で開催される、ラグビーワールドカップ2019、女子ハンドボール世界選手権熊本大会も意識し、「くまモンの故郷」熊本が世界中の人々に知られるような戦略も展開されている。

こうした熊本県におけるくまモン等による魅力発信戦略の取組を調査することにより、今後の委員会調査の参考に資する。

(2) 主な説明項目

ア 施設の運営状況等

(ア) 運営方針

首都圏における熊本県の観光・物産・文化等の情報発信や販路拡大のため、県産品の展示販売や旬の食材を使った飲食物を提供することにより熊本のイメージアップを図り、新たな熊本ファンの増加につなげる。

(イ) 施設の規模と特徴

- ・ 1階（くまもとプラザ：92.62m²）

（一社）熊本県物産振興協会が運営し、食品、酒類、民芸品を約1,000品目販売のほか、産地直送の青果物の販売、商品の随時入替え、各種イベントの開催等により、できるだけ多くの商品を紹介し、何度も来館いただけるよう心掛けている。

また、首都圏のお客様の声を直接伺い、魅力ある商品開発につなげるための情報収集の場にもなっている。

- ・ 2階（くまもとサロン（①ASOBI・BAR、②くまモンコーナー、③観光案内コーナー）：86.2㎡）
 - ① 県産品の販路拡大につながる「おもてなしの場、情報発信の場」として、熊本の酒と旬の食材を使った料理を提供している。
 - ② くまモンの関連グッズを販売。くまモン人気に伴い、1階に設置していた売場を平成25年8月に2階に移設し、展示面積を拡大。
 - ③ 観光コンシェルジュが常駐し、旅程アドバイスや最新観光情報の提供を行うとともに、パンフレットやマップ等を無料提供。
- ・ 3階（熊本県東京事務所（くまもとビジネス推進課、くまもとセールス課、（一社）熊本県物産振興協会東京支部他）：86.2㎡）

(ウ) 売上高と来館者（平成28年度（平成27年度））

- ・ 売上高：620,883千円（334,932千円）
- ・ 来館者：588,458人（416,607人）

（*）平成28年度の主な増加要因としては、熊本地震復興支援と想定。

イ 熊本県におけるくまモン等を利用した魅力発信戦略について

(ア) 熊本県政の目標とチームくまモンの行動規範

- ・ 現在の蒲島熊本県知事の目指すものは、「県民の総幸福量の最大化」。その4つの要素は、「経済的豊かさ、品格と誇り、安全安心、夢」。ちなみに、職員に求めるものは、「期待値を超えろ」。
- ・ 「県民の総幸福量の最大化」は、チームくまモンの基本理念でもあり、その行動規範は3つのSにある。
 - ① SURPRIZE（サプライズ）－常にフロンティアをひろげ新しいことにチャレンジし、皆さんをびっくりさせ、「いいね」と言ってもらおう。
 - ② STORY（ストーリー）－その場しのぎの目立つことを行うのではなく、なぜ、くまモンがその行動をするのか、物語にすることで皆さんがより深く理解し、納得していただきやすくなる。
 - ③ SHARE（シェア）－県と企業の間でのウインウインの関係だけでなく、県民やファンの皆さんにも「いいね」と言っていただけ、くまモンにかかわるすべての皆さんに幸せの共有ができる取組。

(イ) 熊本地震とくまモン

- ・ 地震直後は人命救助等の活動を優先され、活動を停止した。しかし、県外で勝手に動き出し、くまモンを通じて熊本を励ます運動が展開され、5月5日に活動を再開し、子供から高齢者まで多くの県民から歓迎を受けるとともに、様々なメディアに登場し熊本支援を呼び掛けた。
- ・ その年の10月19、20日の朝日新聞には「くまモミクス」として取り上げ

られ、震災を経て、くまモンは熊本のシンボルへ成長したと思われる。

(ウ) 利用許諾と経済効果

- ・くまモンの利用許諾は、熊本県は国内でも有数の農業県であり、その振興のため、「食品については原則として県内企業のみ」としている。したがって、県外企業であっても、一定量以上の県産食材を使っていた食品は、例外的にくまモンの利用を認めている。

(参考) 許諾の種類

- ① 営業部長案件
- ② 通常の利用許諾（食品は原則県内に本社、事務所、工場のある企業のみ）
- ③ 例外規定（県外食品メーカーで県産食材を一定割合使った食品）

(参考) 経済的効果等

- ① 利用許諾件数：244,342件（2016年末現在）
- ② 関連商品売上高：3,643億円（2011年～2016年末累計。うち2011年は25億円、2015年は1,007億円、2016年は1,226億円（日本銀行調査））

(エ) 世界戦略

くまモンの勢いは国内にとどまらず、海外にも広がっている。その準備として13の国と地域で商標登録し、アメリカ合衆国と中華人民共和国においては国内法に基づく著作権登録を行い海外販売を開始した。

(参考)

- ・アジアのくまモンーくまモンショップ開設（香港の百貨店、2014年3月）、くまもとくまモンフェア開催（台湾のセブンイレブン約5,000店舗、2014年7月）、くまもとフェア開催（タイのショッピングモール、2016年1月）。
- ・欧米のくまモンーテディベアくまもん（ドイツ、2013年5月、1,500体が5秒で完売）、「バカラ」のくまモン（フランス、2013年）。

(オ) スポーツに関する戦略

2019年にラグビーワールドカップ2019が開催されるが、熊本も会場の一つで、同年世界女子ハンドボール選手権も熊本県で開催される。また2020年は東京オリンピック・パラリンピックが開催され、これからはばらく世界の目が日本、そして熊本にも向けられる。ここで、海外から「くまモンの故郷ですよ、いいところですよ、一度行ってみたいですよ」と言われるよう、世界中にくまモン、そして熊本を知っていただけるような取組をこれからも展開していきたい。そのためのくまモンのスポーツにかかる新たなデザインも作成した。（①—2写真参考）

(カ) その他（課題等）

くまモン頼みの傾向が出ている。ディズニーランドに比して、熊本県をくまモンランドと例えるのであれば、くまモンとお客様だけではだめで、熊本県民がキャストにならないといけない。2019年の2つの大きなスポーツイベントを念頭において、新たなくまもとサプライズを地元で展開することが必要だと、スポーツを所管する国際スポーツ推進局とも連携し、くまもとサプライズの第二ステージを展開するための準備をしている。

(3) 主な質疑応答

質 疑 アンテナショップの客層は常連客が多いのか、それとも飛込みの客が多いのか。

応 答 既にオープンして23年やってきているのでリピーターが多い。またスタンプ会員（貯めると割引特典）が1,200人程度いる。さらに、熊本地震で多くのメディアが取り上げてくれたことで新規客が増え、また向かいに東急プラザ銀座がオープンし、ロッテが入ったことで外国人旅行客が増え、そこに来て目の前にくまモングッズのお店があると知った外国人の来客者も増えた。

質 疑 アンテナショップの役割をどう考えるか。

応 答 本来はここを販路拡大へのきっかけとする場所ではないかと思うが、終着地になってしまっている。例えば、黒糖ドーナツ棒で有名な(株)フジバンビなどはもうここから巣立ってもいいのではないかと思うのだがそうになっていない。そこで、その支援のための新たな販路拡大策を考えている。

質 疑 熊本県内の市町村もゆるキャラを持っているが、そのキャラクターとのコラボや商品の販売などはしているか。

応 答 ゆるキャラの集まるステージイベントなどではコラボしているが、例えば熊本市のひごまる関連商品などは置いていない。またオファーも受けていないが、県の物産館なので今後あれば検討課題としたい。

質 疑 くまモン開発にかかった予算はどの程度か。また、2019年のラグビーワールドカップなどで新たに作成したスポーツ関係のデザイン料はどの程度か。

応 答 くまモンは新幹線開業に伴うくまもとサプライズに係る事業で先方からの提案で出されたもの。その著作権買取りが500万円程度と思われる。また新たなスポーツ関係のデザインの依頼額も同額程度。

① - 1 (成尾館長説明)



①-2 くまモンスポーツ関係デザイン



(4) 調査結果

熊本県では、2011年の九州新幹線開業に伴う新たな魅力発信戦略としてくまモンを登場させ、それ以降くまモン等を活用した戦略を展開するとともに2016年発生した熊本地震復興等多くの場面でシンボリックな立場を示している。

以上のように、熊本県におけるくまモン等を活用した魅力発信戦略の取組を調査したことにより、本県の今後の施策を調査する上で、参考に資することができた。

3 湘南港（江の島ヨットハーバー）

(1) 調査目的

湘南港は、昭和39年に開催された東京オリンピック大会のヨット競技場として整備され、大会終了後は、公共ヨットハーバーの草分けとして数々のヨットレースを開催し、日本のヨット活動の普及に貢献してきた。

県では、平成3年度から、一般の人々も気軽に訪れることができる開かれたマリーナを目指し、港湾管理事務所の建て替えやヨット保管場所の拡大、緑地及び遊歩道の整備などを進めてきたところである。平成27年6月にオリンピック組織委員会がIOC理事会において、セーリング競技の会場を湘南港（江の島ヨットハーバー）とすることが決定されたことから、新たな整備が必要となっている。

そこで、湘南港のオリンピック開催に係る整備状況を調査することにより、本県の東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会のセーリング競技開催会場整備計画に関する委員会調査の参考に資する。

(2) 主な説明項目

ア 施設概要

(ア) ヨット収容施設（収容能力）

- ・クルーザー 147隻（係留84隻、陸置63隻）
- ・ディンギー 809隻（陸置）
- ・ビジター 241隻（係留12隻、陸置229隻）

(イ) クレーン

- ・3 t 吊ジブクレーン 1 基（ディンギーバース）
- ・25 t 吊門型クレーン 1 基（クルーザーバース）

(ウ) 本船岸壁

2,000 t 級船舶の接岸できる水深－6 m の耐震物揚場(109m)

(エ) 港湾管理事務所

会議室 8 室、更衣室、事務室、延べ床面積 訳3,400㎡

(オ) その他

- ・臨港道路附属駐車場 普通車320台、大型車 5 台
- ・船具庫

イ 沿革（主なもの）

- ・昭和35年－東京オリンピック組織委員会が、江の島でヨット競技を実施することを決定し、湘南港の建設事業を開始（昭和39年完成）
- ・昭和39年－この年開催された東京オリンピック終了後は、ヨットハーバーを中心とした湘南港の一般利用を開始。
- ・平成3年－ヨット保管隻数の拡大、「開かれたマリーナ」を目指した潤いと親水性のある空間の確保、土地の有効活用等のため再整備に着手（～平成16年）。
- ・平成10年－「かながわ・ゆめ国体」ヨット競技の会場となる
- ・平成26年－現港湾管理事務所（ヨットハウス）供用開始

ウ オリピック開催に係る主な整備内容

（注：事業の主な着手年毎に記載し、主な施設には整備概要等）

(ア) 平成28年度

- ・江の島大橋 3 車線化
東京2020オリンピック競技大会・セーリング競技の成功と、湘南港の機能強化や江の島地域の活性化を図るため、江の島大橋を拡幅整備する。
- ・江の島弁天橋舗装等工事
- ・クレーン改修

(イ) 平成29年度

- ・給油施設設置
東京2020オリンピック競技大会・セーリング競技をはじめ国際大会の円滑な実施を支えるための給油施設は、平成29年台風第21号の高潮・

高波被害を受け、当初の設置予定箇所では、越波・浸水被害が想定されることから、一部の給油タンクを地下タンク式に変更する。

・セーリングセンター整備

東京2020オリンピック競技大会・セーリング競技の円滑な運営及び日本人選手の活躍支援を図るとともに、オリンピック後も国際的な大会を円滑に実施し、次代を担うセーラーの育成拠点とするため、艇整備庫等も備える。

・マリーナ港区浮き栈橋整備

・コンテナ置場基礎

(ウ) 平成30年度（プレプレ大会を兼ねてワールドカップを開催予定）

・湘南港トイレ改修（5箇所）

東京2020オリンピック競技大会・セーリング競技の開催に相応しい会場を準備するためトイレの改修を行う。なお湘南港の漁港区の船揚場やマリーナ港区の浮き栈橋等の補修も同様の理由で行っていく。

・漁港区改修

・監視塔撤去

(エ) 平成31年度（プレ大会（テストイベント）、ワールドカップ開催予定）

・湘南港管理事務所改修

・臨港道路補修

(3) 主な質疑応答

質 疑 県外調査で行った蒲郡のヨットハーバーには屋根付き施設があったが、同様施設の整備予定はあるか。また障がい者なども楽しめる対応はどう考えられているか。

応 答 屋根付き施設の整備は考えていない。また、浮き栈橋を障がい者を含め多くの方がヨットを楽しめるような施設として整備する計画で、来年度に設計に入る予定。

質 疑 主な恒久施設の整備はどのように考えているか。

応 答 恒久施設の整備時期は、大きいものはセーリングセンターと給油施設。セーリングセンターは来年度工事を開始し、2019年夏までに完成し、テストイベント、ワールドカップが開催されるので、それまでに整備したい。

給油施設については2018年夏のワールドカップまでに何とか間に合う。これは軽油とガソリンがあり、軽油は今夏に間に合うが、ガソリンは台風の関係で、従来の地上タンク式から地下と考えており、2019年ワールドカップ、テストイベントには間に合う予定。

質 疑 トイレの改修が5箇所予定されているが、その改修イメージが見えているか。例えばスペースや洋式、和式の数とか。

応 答 現状は便器などの調査しており、また日本人も西洋化していて和式が苦手となっている方もおり、基本洋式をメインで考えている。数も多ければいいが、一番トイレを増やす予定場所として、江の島大橋を渡し切ったところに小規模トイレがあるが、そのニーズが高いと思われるので、数を多くする形で対応したい。あとは様子を見て考えたい。

質 疑 トイレは後に残る恒久施設なのでよろしくお願ひしたい、あとは数を増やし洋式化することのことだが、障がい者などの浮き桟橋も同様だが、バリアフリー化はどう考えているか。

応 答 バリアフリー化は全トイレに考えている。

② - 1



②-2



(*) ハーバー内視察中においても、質疑が随時行われた。

(4) 調査結果

湘南港（江の島ヨットハーバー）は、昭和39年の東京オリンピックでのヨット競技開催にあわせ施設等が整備され、それ以降も整備・拡充に取り組み、東京2020オリンピック競技大会のセーリング競技会場となった。

以上のように、東京2020オリンピック競技大会のセーリング競技開催に向けての整備内容等の取組を調査したことにより、本県の今後の施策を調査する上で、参考に資することができた。

<参 考>

- 1 随行者 砂村副主幹(議会局議事課)
秋田副主幹(スポーツ局総務室)
石井副主幹(産業労働局国際観光課)
小野課長補佐(警察本部総務部総務課)

- 2 調査箇所側出席者
 - (1) 熊本県東京事務所(銀座熊本館)
銀座熊本館館長、くまもとセールス課長
 - (2) 湘南港(江の島ヨットハーバー)
伊藤オリンピック・パラリンピック担当部長、焼石オリンピック・パラリンピック課長、三枝セーリング課長、峯村砂防海岸課長